令 和 6 年 度

インターンシップ

総括

実施地域

福知山市・綾部市・舞鶴市・丹波市市島町

京都府立工業高等学校

目　次

１　インターンシップ推進地域及び本校の概要　・・・１

２　インターンシップのテーマ　・・・２

３　インターンシップ支援地域連携協議会の組織及び活動状況
・・・２

４　インターンシップの実施　・・・３

1　インターンシップ推進地域及び本校の概要

（1） 推進地域の概要

ア　地域名及び人口（令和６年７月現在）

福知山市	74,652 人
綾部市	30,148 人
舞鶴市	75,721 人
丹波市市島地域	8,083 人

イ　地域の特色（産業、地域経済等）

福知山市は平成 18 年に大江町・三和町・夜久野町の３町を編入合併して現在に至る。福知山市・綾部市・舞鶴市は、京都府北部の経済・文化の中心地であり、交通アクセス面でも、京阪神方面へは舞鶴若狭自動車道が通じ、日本海側には北海道小樽港をはじめ海外とも定期航路を持つ舞鶴港があり、産業拠点としての立地条件に恵まれた地域である。

京都府立工業高等学校は福知山市の長田野工業団地に隣接し、他にも綾部工業団地、アネックス京都三和、舞鶴の工業団地など多くの企業が立地する地域にある。

（2） 本校の概要

ア　沿革

昭和 38 年度に京都府立石原（いさ）高等学校として開校し、設置学科は機械工学科、原動機工学科、電気工学科、電子工学科の４学科であったが、昭和 51 年度に設置学科の名称を機械科、原動機科、電気科、電子科に変更した。

平成２年度に京都府立工業高等学校に校名変更を行うとともに、機械プランニング科、生産システム科、電気エネルギー科、電子コミュニケーション科、情報システム科の５学科に改編した。そして、平成 30 年度入学生からは、今後の工業技術の進展に対応できる技術者を育成するため、機械テクノロジー科、ロボット技術科、電気テクノロジー科、環境デザイン科、情報テクノロジー科の５学科に改編した。

イ　教育方針　　校　訓　　「信義・創造・実践」

教育目標

1　個性の伸長と能力の開発につとめ、豊かな人間性を培い、国家及び社会の有為な形成者として必要な教養を身につけた人間を育成する。

2　高度技術化社会に対応できる知識と技術を備え、豊かな創造力のある実践的な技術者を育成する。

3　国際化時代に対応できる豊かな国際感覚を身につけた人間を育成する。

ウ　学級数及び在籍生徒数（全学年 15 学級 492 名、令和６年 12 月現在）

学　　科	機械	ロボット	電気	環境	情報	計
１年（５学級）	35	33	35	35	36	174
２年（５学級）	34	34	31	27	34	160
３年（５学級）	34	30	24	34	34	156
合　　計	103	97	90	96	104	490

２　インターンシップのテーマ

「地域とともに発展する学校づくりをめざして」

３　インターンシップ支援地域連携協議会の組織及び活動状況

（１） 組織

令和６年度インターンシップ支援地域連携協議会

所属	役職名	氏名
一般社団法人　長田野工業センター	専務理事	嵯峨根　正和
一般社団法人　綾部工業団地振興センター	専務理事	土井　渡
福知山商工会議所	事務局長	大内　淳
綾部商工会議所	事務局長	芦谷　匡哲
舞鶴商工会議所	中小企業相談所　相談所長	桐村　達也
福知山市商工会	経営支援員	月見　圭晴
北京都ジョブパーク	副センター長	村上　孝
綾部市役所農林商工部	次長 兼 商工労政課長	荻野　達徳
福知山市産業政策部	産業観光課長	大江　秀也
京都府中丹教育局	指導主事	倉内　邦行
福知山市教育委員会	事務局次長兼学校教育課長	間島　哲哉
綾部市教育委員会	教育部 学校教育課　課長	斉藤　さおり
京都府立工業高等学校	ＰＴＡ会長	森下　賢司
京都府立工業高等学校	校長	野村　善之

事務局

京都府立工業高等学校	副校長	宮部　和真
京都府立工業高等学校	副校長	山本　雄一
京都府立工業高等学校	事務長	猪岡　奈留美
京都府立工業高等学校	進路指導部長	田中　康嗣
京都府立工業高等学校	進路指導部	榎原　香
京都府立工業高等学校	工業科	大槻　悟

（２）活動状況

令和６年５月 17 日（金）第１回インターンシップ支援地域連携協議会

令和６年度インターンシップの実施計画について

令和６年度受入事業所の状況について

令和７年１月 28 日（火）第２回インターンシップ支援地域連携協議会

令和６年度インターンシップ事業報告

令和７年度インターンシップについて

情報交換　　等

４　インターンシップの実施

（１） 事前準備

ア　依頼事業所の確認　　令和６年２月

イ　事業所への依頼　　令和６年２～３月

（２） 実施要項

ア　目的　　１　勤労観・職業観の育成と職業適性や将来設計について考えさせる機会とし、職業選択能力を養わせる。

２　事業所等の現場において実践的な知識や技術・技能に触れさせ、学校における学習への理解の深化、意欲の喚起を図る。

３　生徒が教職員や保護者以外の大人と接する機会を通じて、異世代とのコミュニケーション能力の向上を図る。

４　就業体験を通じて、地元の地域事業所との相互理解を深めさせ、地域社会に貢献できる人材を育成する。

イ　内容　　生徒が自らの学習内容や将来の進路に関連した就業体験を行う。
京都府内では最大規模の実施で、26年目となる。

ウ　実施期日　　令和６年７月１日（月）　～　５日（金）

エ　実施日数　　原則５日間

オ　実習時間　　８：30　～　17：00

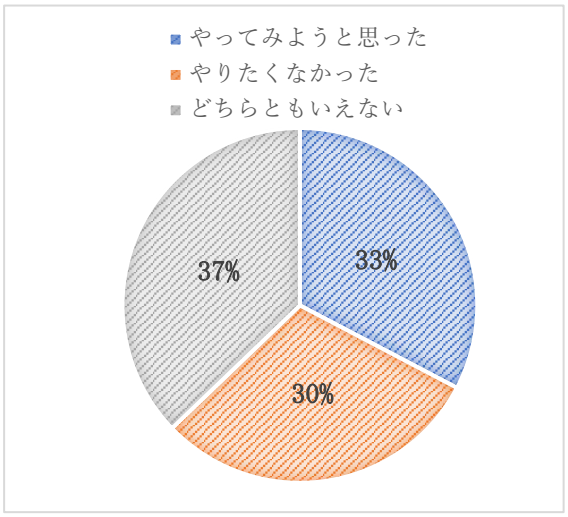
カ　対象生徒　　２年生　162人

キ　協力事業所数　福知山市54社、綾部市20社、舞鶴市５社、
丹波市市島町１社、宮津市１社
綾部市役所関係３カ所、福知山市役所関係６カ所
合計90事業所

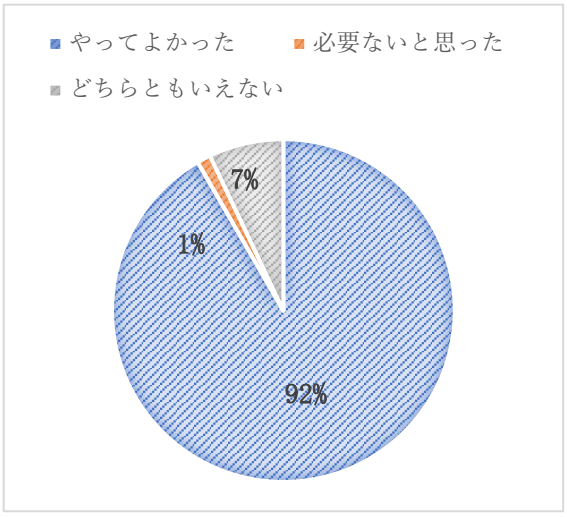
５　アンケート結果

（１） インターンシップを体験した２年生のアンケート結果

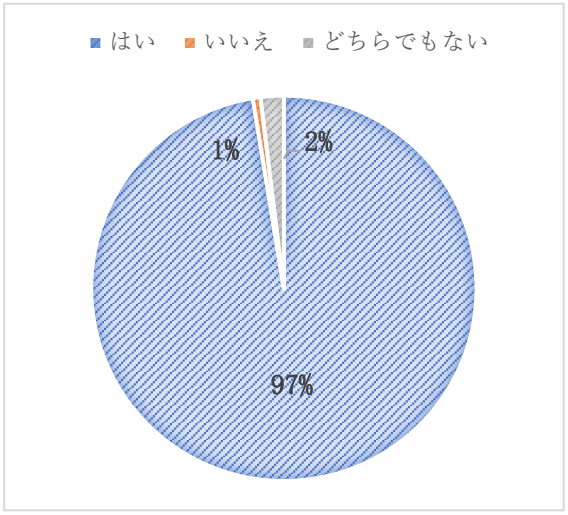
ア　インターンシップを体験する前の気持ち



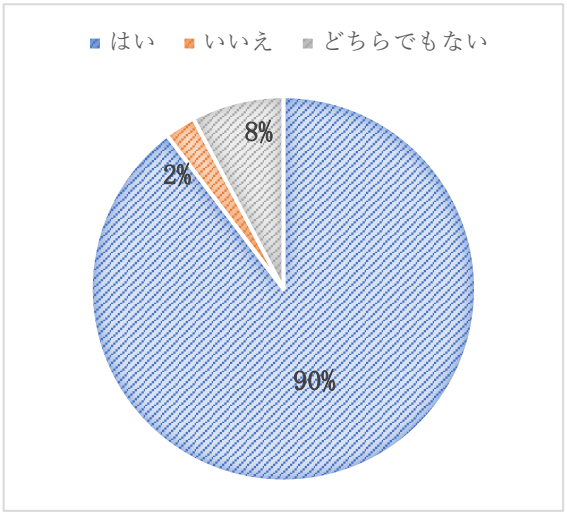
イ インターンシップを終わってみての気持ち



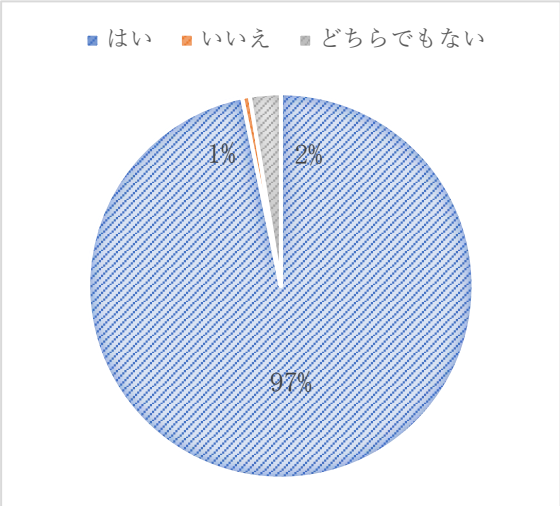
ウ　働くことについて考える機会となりましたか



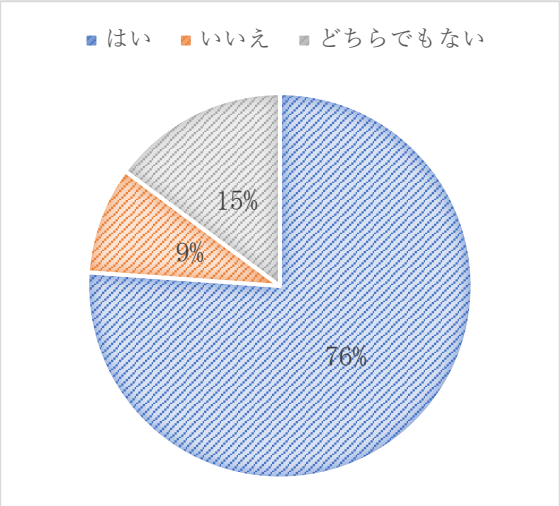
エ　進路選択の参考になりましたか



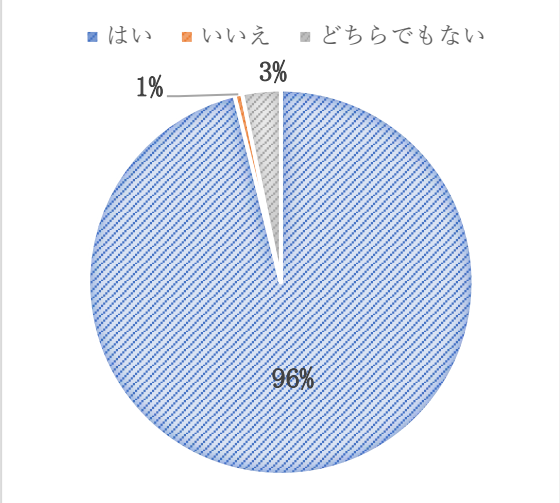
オ　職場の方々とコミュニケーションはとれましたか



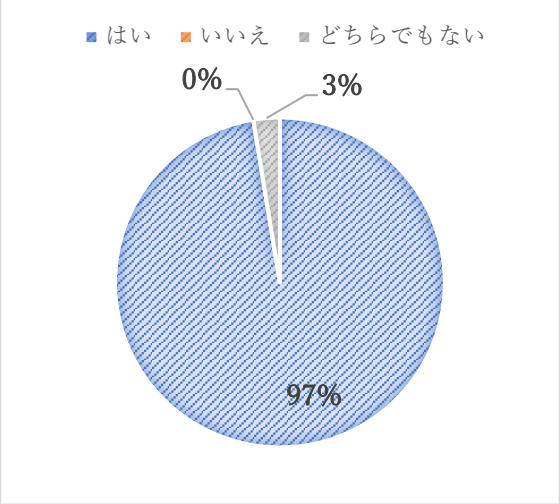
カ　分野の知識が豊かになりましたか



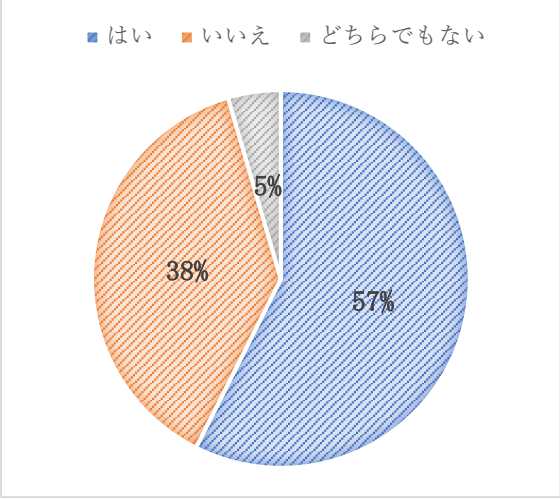
キ　充実した体験ができましたか



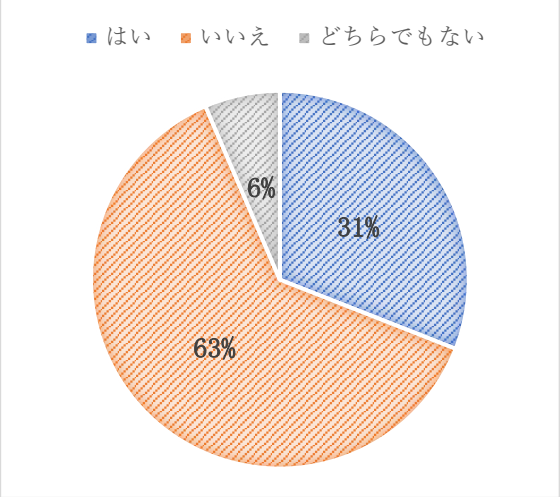
ク　積極的に取り組むことができましたか



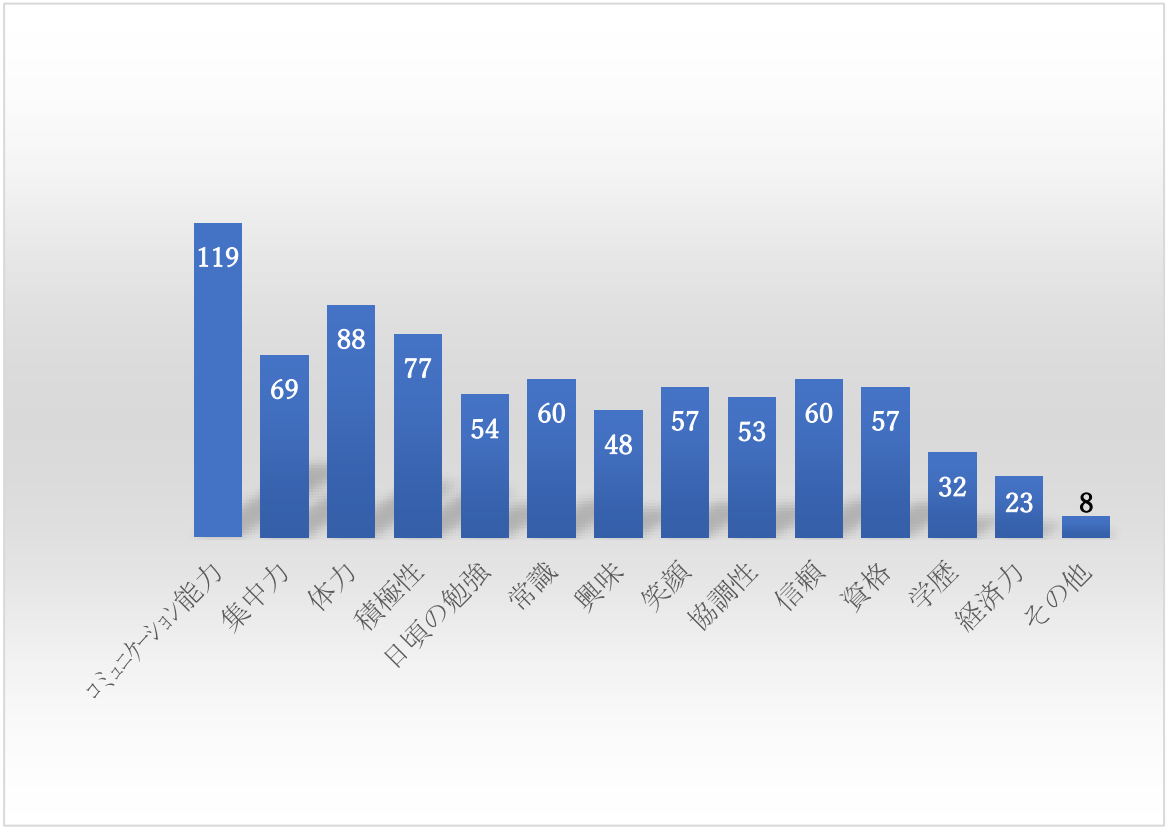
ケ　期間中体力的に辛いことがありましたか



コ　期間中精神的に辛いことがありましたか



サ　インターンシップに参加してこれから自分にとって何が必要だと感じましたか　（複数回答可）



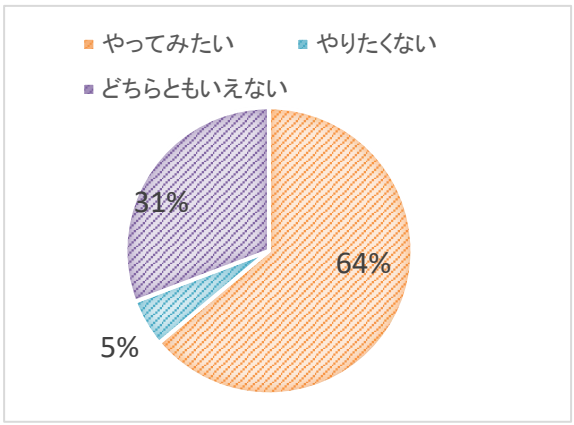
（２） 生徒がインターンシップで得たもの、感じたこと（抜粋）

・不安でもあったし、やってみたかった気持ちもあった。
・積極的に話しかけていただいたり、丁寧に教えていただいたりした。
・学校生活だけでは味わえない経験をすることができたから。
・初めは緊張しましたが、やってみたいという気持ちもありました。実際にやってみて、将来的にも使える知識を教えてもらい、自分のためになった。
・学科で学んでいない内容も体験できた。
・よい経験になって会社の雰囲気や学校との違いが学べた。
・アーク溶接などの工場での仕事をしてみて、暑いし、大きい音がいっぱい鳴ったりしていて大変だけど頑張って仕事して達成感を少なからず得られたし、大人になった時に必要な能力などを教えてもらえた。
・学校では使わないような工具や習わないようなことを学べた。
・好きな会社に行くことができて、貴重な体験をたくさんさせていただけた。
・自分が志望した場所で将来につながることができた。
・作業内容以外も色々なこと（大人の方との話し方など）を学べた。
・使ったことのない機械を動かすことができた。
・インターシップに行かなければ体験できなかったり、学べなかったりする事がたくさんあったので良かった。
・最初は「会社」というのがあまりわかっていなくて不安でいっぱいだったけれど、この一週間色々な事を学び将来自分はどのように仕事をするのかが少しわかった。

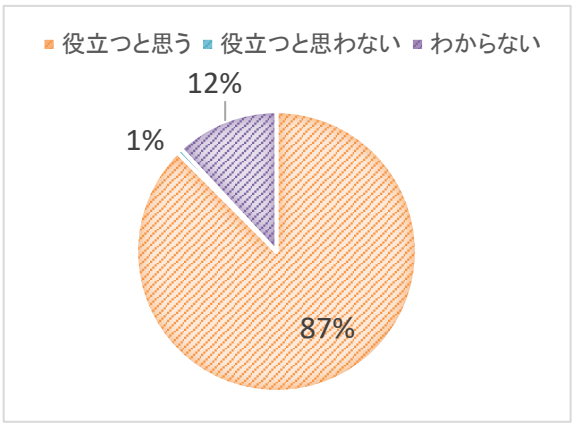
・学校じゃ見ることができない機械やできないことができて楽しかった。
・仕事の大変さと同時に仕事を決める時に大切なことなどたくさんのことを学べた。
・人生経験になってよかったし将来仕事に就くビジョンが少し想像できてよかった。
・会社について詳しいことを知ることができた。体験してみないとわからない職場の雰囲気や実際の仕事内容がわかった。
・実際の仕事をして学校で習っているどんなことが活かせるのか興味があった。
・仕事がどのような工程で行われているのか知ることができた。
・働くことの意味を考えることができた。
・社会の辛さの一部と上司との関わり方がわかりました。
・仕事には責任が伴うし、学校と違って働くことの大変さがわかった。
・普段から関わりがある仕事だとしても詳しくは知らなかったりして、滅多に経験できない事ばかりで、色々経験でき、就職についての視野が広がった。
・実際に社会経験になったし、自分は分析業が向いているのかなと思った。
・このインターンシップを通して、同じ作業を繰り返しやる事や、立ち仕事の大変さがわかった。我慢強さや、立つ事に対して耐性がついた気がする。この様々な行程がある事によっていつも食べている物が出来上がっているんだと実感した。
・食品なので丁寧に扱い、異物が混入しないよう服にもこだわっていた。
・集団で行動する上での大切さがわかったから。また、責任を持って行動することが会社への信頼や実績に繋がるとわかったから。
・製造業はどんな感じなのかを知ることができた。
・学校とは違っていて、新鮮だったから。
・いろんな考え方を知ることができた。また、外から見る市役所と中から見る市役所の違いを知ることができた。
・鋳造という、普段全く触れることがないような貴重な体験ができ、センターの方の話も、とても興味深いものでした。
・初めて行く所で初めてする作業や初めて会う人が多く緊張することばかりでしたが、そのぶん緊張しなくて良いんだよと職員の方達が励ましてくださったり、笑顔で接して貰えたりしたので、すぐに慣れることができ、インターンシップでこの会社を選んで良かったと思える場所だった.
・仕事はどんなものなのか、仕事するにあたって必要なことは何か知る事ができた。
・進路希望は進学ですが、いずれは就職するので体験だとしても就労の経験をできたのは良かった。
・私の知らない社会を学べた。

（3）インターンシップフォーラムに参加した、来年度インターンシップを控える１年生のアンケート結果

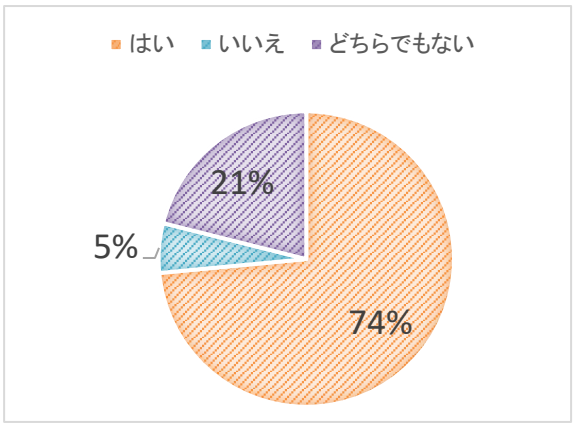
ア　インターンシップを体験する気持ちについて



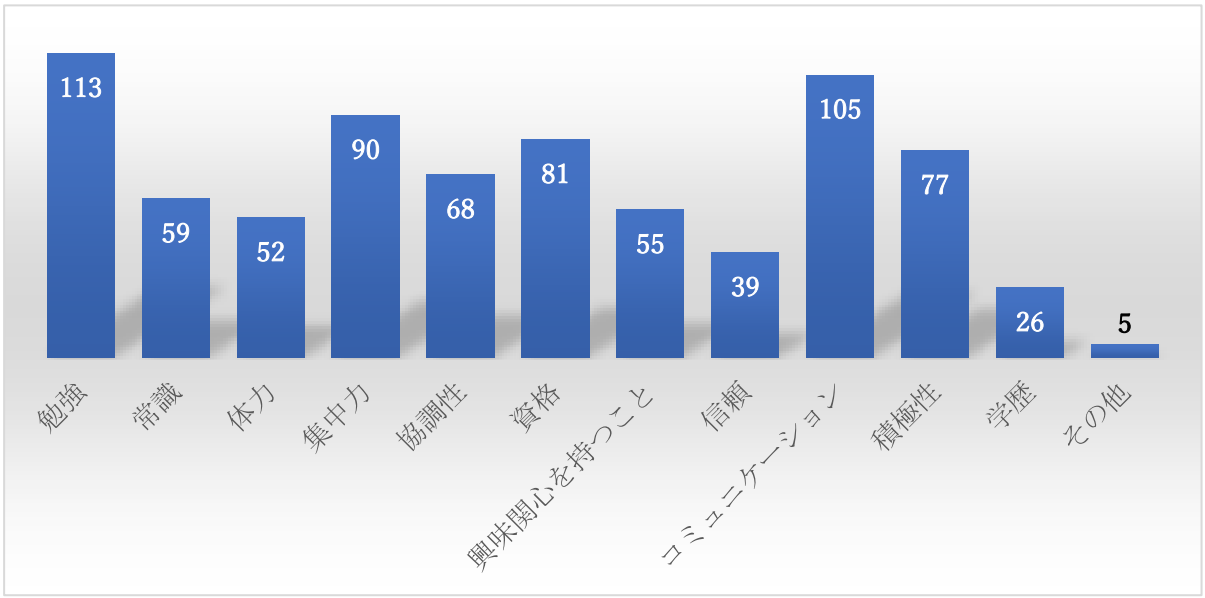
イ　インターンシップに参加すると進路決定に役立つと思いますか



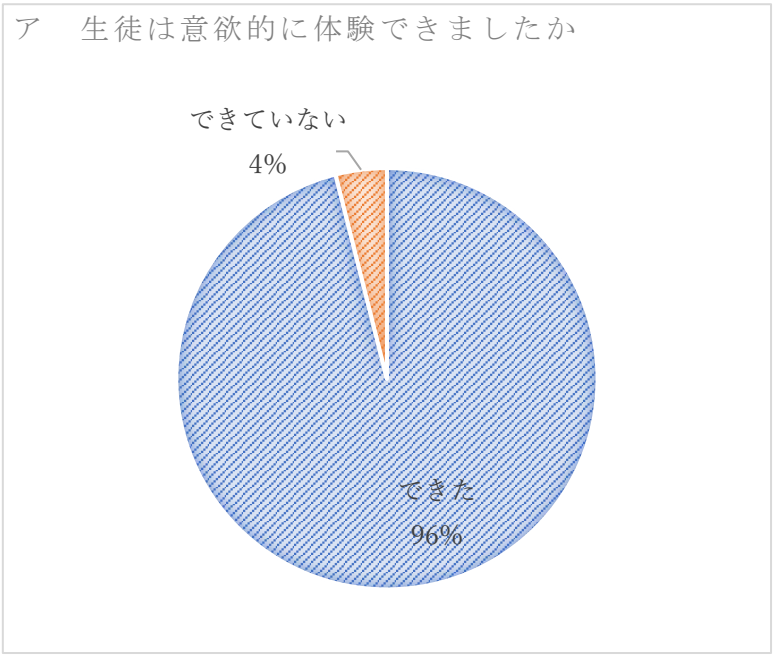
ウ　フォーラムへ参加して学習への意欲と関心がでてきましたか



エ　フォーラムに参加してこれから自分に何が必要だと感じましたか（複数回答可）



（４）インターンシップに参加していただいた事業所へのアンケート結果



（５）事業所様からの所見

事業所の方々から大変多くの御意見、御感想、御指導、御助言をいただきました。ありがとうございました。抜粋して掲載させていただきます。

・非常に積極的で良い子ばかりでした。警報で一日少なくなったのが残念でした。
・テキパキと意欲的に作業を行っていただき、こちらも良い刺激を受けました。
・働くことや、業界・業務を意欲的に学び、知ろうとする姿勢を見ることができました。
・挨拶がきちんと行え、就業時間の 10 分前には職場に行き、真面目に取り組んでいた。今後も継続して受け入れを行う予定です。
・社会に出る前に様々な職種の企業で体験ができることは貴重だと思います。今後とも継続して活動されてください。
・学生さんは、礼儀正しく、受け答えもしっかりできていました。
・皆さんおとなしく、緊張もあると思いますが、返答や、反応が少なく感じます。
業務理解を通して社会に貢献する大切さや厳しさを学べる良い取り組みだと思います。
・事業所によって様々であることは避けられないが、生徒たちにとっては大変有意義な期間になっていることと思います。そして、我々事業者にとっても大切な時間です。これからも続けていただき、賛同される事業所があることを期待します。
・持参される安全靴をしっかり点検してください。２年連続で底のゴムが剥がれこちらで修繕しています。安全面の観点からも大切な事だと思います。
・他校のインターンシップ受入時期に重ならない時期で、秋のイベント時期外だと受け入れしやすい。
・学校から希望していない部署に配置されているとのことで、興味がなく受け入れる効果が感じられない。
・長年実施され、計画から結果報告までしっかり管理されており、受入側も安心して対応できています。

（6）成果と課題

インターンシップ支援地域連携協議会を中心に、商工会議所、行政機関、工業団地等の積極的な協力の下、今年度も福知山市、綾部市、舞鶴市、丹波市の事業所で受入をしていただきました。計 90 事業所様の御協力により、無事に実施する事ができました。

今回のインターンシップを終えて、生徒は挨拶やコミュニケーション、責任感、協力することの大切さなど、社会で必要とされる基礎的なスキルを学ぶことができました。実際の職場で経験することで、「責任を持つことが信頼や実績に繋がる」という社会人としての基礎力の向上に繋がりました。

また、将来的にどのような仕事をしていきたいのか、自分がどのような業種や仕事に向いているのかについて具体的なビジョンを持つことができました。特に、「自分は分析業が向いているのでは？」といった職業適性を実感できた生徒がいたことは大きな成果だと感じました。

実際の職場での雰囲気や業務内容を体験し、特に普段見ることのない機械や現場の仕事に触れることで、業界や企業への理解が深まりました。実際の職場だからこそ、学校では学べない「仕事の大変さ」や「責任の伴う仕事の重要性」を理解し、働くことの意味や重要性について深く考える機会を得ました。

課題としては、初めての職場体験で緊張し、反応が少ない学生も多かったことが指摘されています。中には、職場の雰囲気に慣れるまで時間がかかり「元気よく意欲的に職業体験をすることが難しい」と感じる場面があったようです。

インターンシップの期間が 5 日間と長いため、企業側でも負担が大きく、学生側でも体験が長すぎると感じる場合があるとされています。特に、天候や外的な要因で予定通り進められないことがありました。

また、安全面での配慮では安全靴の故障が相次ぎ、安全装備の確認を事前にしておく必要があると感じました。

本校のインターンシップは夏の暑い時期に行われるので、体力的な負担や作業環境の厳しさが課題として挙げられています。特に、屋外での実習が雨天や暑さの影響で中止となることがあるため、より快適な時期に実施することが望ましいという御意見がありました。

これらの点は、来年度への課題として改善するための指導等を検討し、お褒めいただいた点は更に良くなるよう、学校全体で生徒の資質・能力の向上へと繋げていく所存です。

来年度就職や進学を控える生徒にとって、社会経験を積む貴重な機会となり、進路決定の指標の一つとさせていただくこともできました。生徒たちは、働くということはどういうことなのか、仕事選びをする上で大切にしたいことは何かなど本当に多くのことを学ばせていただきました。今回のインターンシップで出た成果と課題を踏まえ、社会で生きていく力を身につけるべく、今後の学校生活の中で十分に指導していきたいと考えております。